

古河市立小中学校 生成AI利活用ガイドライン

— Gemini・NotebookLMを安全に学びの力に変えるために —

古河市教育委員会

2026年10月版

目次	01	生成AIを活用する3つの目的
	02	AIを活用できる主な業務
	03	活用の指針（教職員）
	04	活用の指針（児童生徒）
	05	教育活動を通じたAIリテラシー育成の「3ステップ」
	06	厳守事項（情報の取扱い）
	07	AI利用時に注意したいリスク
	08	厳守事項（著作権の配慮）
	09	授業内AI活用の基本ルール
	10	授業でのAI活用の基本手順
	11	古河市AIスマートルール
	12	参考資料

01 |

生成AIを活用する 3つの目的

本ガイドラインは、文部科学省の「初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドライン」（令和6年12月26日付 Ver.2.0）の方針を受け、古河市の教育現場において安全かつ効果的に活用するための方向性を示すものです。

児童生徒の資質・能力の伸長

考えを深める対話相手として活用
批判的思考力と情報リテラシーを育む

個別最適・ 協働的な学びの高度化

GeminiやNotebookLMで一人ひとりの
習熟度に合わせた支援を実現

教職員の 校務効率化と授業改善

教材作成の補助や事務作業を効率化し、
児童生徒と向き合う時間を確保

02 |

AIを活用できる 主な業務

AIは、情報整理や文章作成の補助、アイデア出しなどの場面で有効です。一方で、判断を自動で任せる用途や、確認なしでそのまま外部公開する使い方には注意が必要です。

活用の前提

AIの出力は参考情報です。
最終判断や対外的な責任は、
必ず人が担います。

文章の たたき台作成



文書作成の初稿を、効率よく準備する。

会議メモの 整理



会議内容の要点を整理し、共有しやすくする。

アイデア出しや 発想の補助



発想の整理や新しい視点の検討に活用する。

情報の要約



長い文章や情報を短く整理し、把握しやすくする。

構成案の作成



資料や文書の流れを組み立てやすくする。

表現の 言い換え

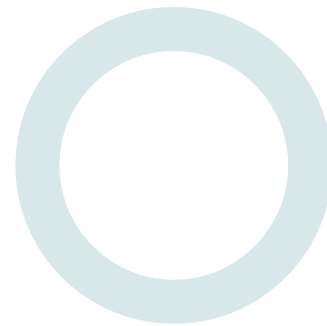


伝わりやすい表現へ整え、読みやすくする。

03 | 活用の指針（教職員）

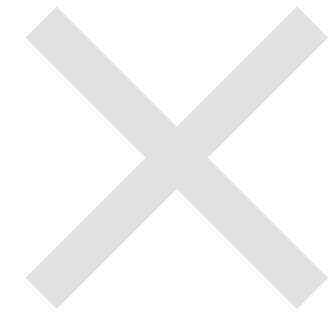
■「初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドライン」（令和6年12月26日付Ver.2.0）が示す方向性
✓教職員が生成AIの仕組みや特徴を理解した上で、生成された内容の適切性を判断できる範囲内で利用するという前提で、校務において生成AIを積極的に利活用することは有用

好ましい使い方



- 適切なAIリテラシーを身に付ける
- ガイドラインを正しく理解する
- 校務や授業目的達成のため、試行錯誤を続ける
- 児童生徒へ適切な使い方を指導し、能力を伸ばす活用を徹底する

避けるべき使い方



- 児童生徒の主体的な思考や対話を疎かにする
ような形での利用はさせない

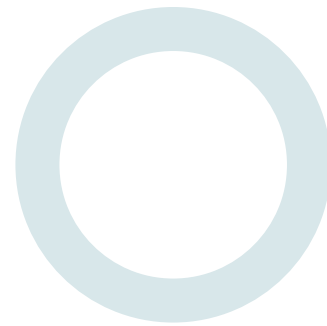
04 | 活用の指針（児童生徒）

■「初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドライン」（令和6年12月26日付Ver.2.0）が示す方向性

✓児童生徒の学びにおいては、学習指導要領に示す資質・能力の育成に寄与するか、教育活動の目的を達成する観点から効果的であるかを吟味した上で利活用すべき

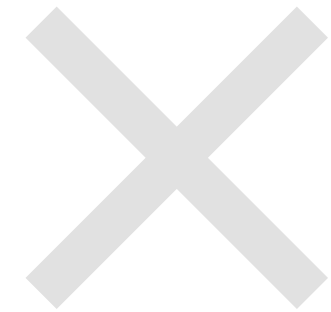
✓生成AIを利活用することが目的であってはならない

好ましい使い方



- 新しい視点や発想をもたらす手段として活用
- 学習活動の目的達成のために活用
- 出力の「誤り」や「偏り」を必ず確認

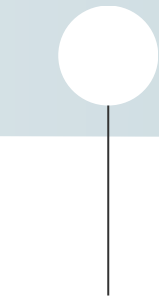
避けるべき使い方



- 回答に依存し、主体的な思考を放棄すること
- 正確性や事実関係の確認を行わずにそのまま使用すること

05 | 教育活動を通したAIリテラシー育成の「3ステップ」

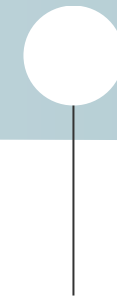
資料を活用し、初回授業でこの「学習の3段階」を指導する。AIリテラシーは継続的な指導が望ましい。



Step 1

AI自体を学ぶ

仕組みや、どのようなAIが存在するかを正しく理解する。



Step 2

使い方を学ぶ

適切な指示（プロンプト）の出し方と、偽情報などのリスクを理解する。



Step 3

教科で使う

自身の課題解決や、考えを深めるために各教科で活用する。

■ 「初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドライン」（令和6年12月26日付Ver.2.0）が示す方向性

- ✓ 利活用に当たっては、生成AIは使い方によって人間の能力を補助、拡張し、可能性を広げてくれる有用な道具にもなりえることを理解
- ✓ 発達の段階や情報活用能力の育成状況に十分留意しつつ、リスクや懸念に対策を講じた上で利活用を検討
- ✓ 「生成AI自体を学ぶ場面」、「使い方を学ぶ場面」、「各教科等の学びにおいて積極的に用いる場面」等を意識
- ✓ 情報活用能力の一部として生成AIの仕組みへの理解や学びに活かす力の向上

06 | 厳守事項（情報の取扱い）

■「初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドライン」（令和6年12月26日付Ver.2.0）が示す方向性

✓安全性を考慮した適正利用

教育委員会の方針に基づき利活用すべきである。私用アカウントや教育情報セキュリティ管理者の許可を得ていない私用端末を用いてはならない。また、出力結果のライセンスの所在など、生成AIサービスの提供者定める最新の利用規約を確認し、遵守する必要がある。

✓情報セキュリティの確保

教育委員会が示す教育情報セキュリティポリシーや実施手順、及びそれに基づく教育情報セキュリティ管理者の指示等を遵守する必要がある。プロンプトに重要性の高い情報である成績情報等を入力してはならない。

遵守すべきルール

■ 古河市教育情報セキュリティポリシーの遵守

教育情報セキュリティ管理者の指示に従い、安全な環境で運用する。

■ 最新規約の確認

生成AIサービス提供者が定める最新の利用規約を確認し遵守する。

厳禁事項

■ 機密情報の入力禁止

個人情報（氏名・成績等）や機密情報を含むデータの inputs は原則禁止

■ 私用アカウントの利用禁止

組織が許可した（古河市のアカウント）環境以外（私用アカウントや私用端末）での利用は控える。

07 | AI利用時に注意したいリスク

AIの活用では、情報漏えい・誤情報の利用・著作権上の問題など、複数のリスクが発生する可能性があります。利便性だけでなく、リスクを理解したうえで運用することが大切です。



情報漏えい



入力した情報が不適切な形で扱われないよう、内容を事前に確認する。



誤情報の利用



AIの回答には誤りが含まれる可能性があるため、事実確認を行う。



著作権・引用



既存表現の流用や不適切な引用になっていないか確認する。



判断の属人化



AI任せにせず、確認者を明確にする。

08 | 厳守事項（著作権の配慮）

■「初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドライン」（令和6年12月26日付Ver.2.0）が示す方向性

✓個人情報やプライバシー、著作権の保護

最新の「教育データの利活用に係る留意事項」等も参照しながら、個人情報保護法等の関係法令等を遵守し、個人情報の取扱いに関して必要かつ適切な措置を取る必要がある。

セーフゾーン

- 授業目的（著作権法第35条）の範囲内での利用か、外部公開用かを確認する。
- 生成物を利用する際は、インターネット検索等で類似性がないか確認することが望ましい。

アウトゾーン

- 「特定のキャラクター名」などを入力し、既存の著作物と類似した生成物を意図的に生成することは絶対に行わない。

授業内AI活用の 基本ルール

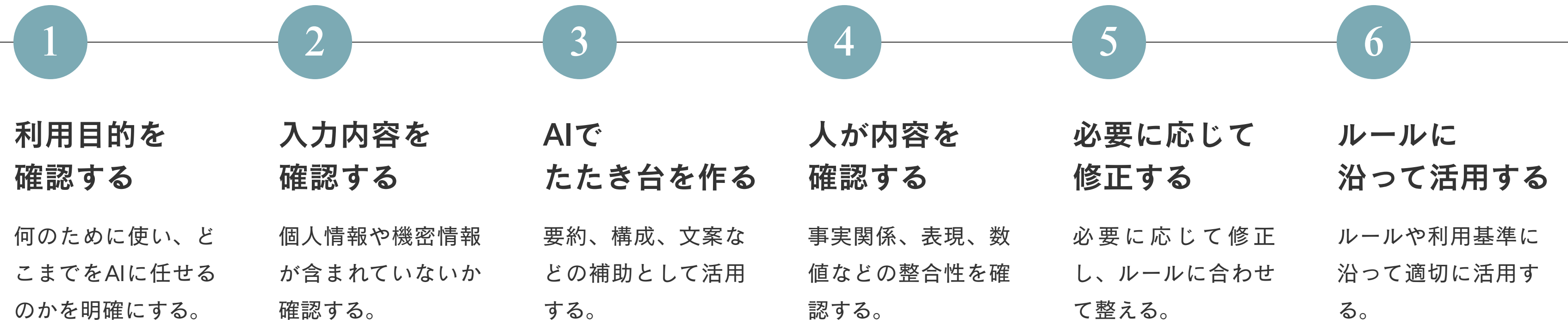
AIは便利な一方で、誤りや偏りを含む場合があります。利用時は、情報の入力・確認・共有の各段階でルールを守り、安易な利用を避けることが重要です。

1. 利用目的を明確にしてから使う
2. 個人情報や機密情報は入力しない
3. 出力内容を必ず人が確認する
4. 事実確認が必要な情報は別途確認する
5. 重要な判断をAIのみに任せない
6. 授業目的を超えた利用はしない
7. 著作権や引用ルールに配慮する
8. 成果物はルールに沿って管理する

10 | 授業でのAI活用の基本手順

AIは便利な補助ツールですが、使い方を誤ると情報漏えいや誤情報の拡散につながる恐れがあります。

まずは、入力前の確認から利用後の見直しまで、基本の流れを共通認識として押さえましょう。



11 | 古河市AIスマートルール

AIを授業で活用する際は、利便性だけでなく、安全性と確認体制を合わせて考えることが重要です。

入力内容の管理、出力結果の確認、ルールに沿った運用を徹底し、適切な活用を進めていきましょう。

正しく使いこなす (理解)

- AIの得意・不得意を知る。
- 常に情報の正しさを確かめる。
(ファクトチェックの徹底)

ルールと権利を守る (責任)

- 他人を傷つけない。
- 機密情報を守る。
- 著作権を侵害しない。

学びの力に変える (目的)

- AIを使うことを目的としない。
- 対話や思考を深め、自身の能力を
育てる手段とする。

12 | 参考資料

文部科学省ガイドライン (Ver.2.0)

本体



概要 1 枚



概要資料



文化庁「AIと著作権について」

基本的な考え方



AIと著作権に
関する考え方



チェックリスト &
ガイダンス



より具体的な事案への対応や最新情報は、文化庁相談窓口や最新の「教育データの利活用に係る留意事項」も合わせてご参照ください。